

2002年10月アルゼンチンの経済情勢

2002年11月
在アルゼンチン大使館

1. 概況

預金引出制限の一部緩和が実施されたが、経済活動は極めて低い水準ながら、為替、物価などは引き続き安定を保っている。IMFとの交渉は、ニールセン金融庁長官等がワシントンに滞在して、直接IMF側と話し合いを行い、月末にはラバーニャ経済相もワシントンを訪問したが、未だ懸案事項が残っており、合意の見通しは不透明な状況である。

2. 経済の主な動き

(1) IMFとの交渉

9月末のIMF・世銀総会後、ニールセン金融庁長官、ピニャネリ中銀総裁等がワシントンに約2週間滞在し、IMFとの合意に向けたインテンション・レターの作成を行った。交渉の争点は、財政黒字の数値目標、公共料金の値上げ、為替市場の自由化、銀行セクターの再建等の経済問題の他、裁判所の行政救済判決による預金引出（amparo）問題などがある。その他、大統領選挙の日程を巡るペロン党内の政治的混乱も、合意の障害になっていると見られる。

11月14日に世銀に対して8億ドルの債務返済を抱える亜政府は、早期の交渉妥結を目指して、28日からニールセン長官、31日からはラバーニャ経済相もワシントンを訪問し、クルーガーIMF副専務理事、オニール米財務長官等と会談したが、特筆すべき成果はなく帰国した。IMFは従来からの主張を強硬に繰り返すのみであり、ドゥアルデ大統領も、経済回復を阻害するような協定には署名しない、との姿勢を示している。

(2) 国際機関への債務支払

IMFとの交渉が纏まらない中、亜政府は国内経済の安定化を理由として、これ以上は対外債務の支払に外貨準備は使わない旨を明らかにしており、15日に支払期限が到来した世銀保証付債券2.5億ドルについて、亜は支払を行わず世銀が代わりに支払を行った。亜政府は60日以内に世銀に対して同額の支払を行うことを約束しているが、その支払が行われない場合、他の世銀保証付債券について世銀の保証がなくなることになる。

なお、亜政府は、11月14日の世銀に対する8億ドルの支払についても、IMFとの合意がなければ支払わない旨を明言しており、国際機関へのデフォルトを回避すべくぎりの交渉が行われている。

(3) 預金引出制限の一部緩和

1日より7千ペソ（各銀行の判断により1万ペソ）以下の定期預金について、引出制限が解除され、自由に預金の引出ができるようになった。銀行から現金で引き出す預金者は少なく、高金利ということもあり、多くの預金引出制限のかからない新たな定期預金に

預けかえられた。引き出された預金がドル買いにまわるとの一部懸念もあったが、為替は安定的に推移した。

また、預金の債券への任意交換（Canje II）が実施され、期間10年のドル建てBOD EN債及びペソ建てで各銀行が発行する債券との交換が募集されたが、期限であった30日になっても対象となる預金に対する交換率は10%にも満たなかった。経済省は、amparoについて最高裁の最終的な判断が下されていないために低い交換率に留まったと見ており、応募期間をさらに30日間延長することを発表した。

（4）第二四半期末の公的債務残高の発表

経済省より、6月末現在の公的債務残高が1146億ドルと発表された。3月末時点と比べ、4.4%の増加となった。内、国際金融機関に対する債務は317億ドルに上る。ドル建て国内債務のペソ化により、昨年末時点と比べ、ドル建ての債務残高は減少している。

3. 経済指標の動向

（1）金融

10月より預金引出制限が一部緩和されたが、為替市場は引き続き安定している。中銀は為替市場への介入により、少しずつ外貨準備を増やしている。高金利により、期間30日から90日の定期預金が増加している。中銀の発表によると、10月末時点で引出自由な預金は、全預金の30%以上に達している。

（2）税収

10月の税収は47.64億ペソで、対前年同月比33.5%の大幅な増加となった。インフレによる付加価値税収の増加や輸出税の増収の他、所得税収も増加している。

（3）産業動向

（イ）小売（9月）

スーパーマーケット売上高は、対前年同月比で18.7%の増加となったが、これは販売数量が減少した一方、商品価格が上昇していることが要因である。ショッピングセンターの売上にも、引き続き同様な傾向が見られる。

（ロ）建設活動指数（9月）

建設活動指数は、前月比0.2%の増加で、ほぼ横ばいで推移しており、対前年同月比での大幅な減少が続いている。

（ハ）工業生産指数（9月）

工業生産指数（EMI）は、対前月比で1%の減少、対前年同月比でも6.9%の減少となった。分野別で見ると、大豆の国際価格の上昇を受けた植物油や、織物、粗鋼などが増加している一方、セメントや自動車は減少している。

（4）物価

消費者物価指数は対前月比で0.2%の上昇に留まった。為替の安定、景気の低迷や公

共サービス料金の凍結が、物価の安定につながっていると考えられる。一方、食料品など生活必需品の上昇率も1.1%に留まった。また、卸売物価指数も0.9%と低い上昇率となった。

(5) 雇用 (9月)

労働省の発表によるブエノスアイレス圏、コルドバ圏、ロサリオ圏の雇用状況をみると、コルドバ圏、ロサリオ圏では若干改善の兆しが見られるものの、総じて低い水準に留まっている。

(6) 貿易収支 (9月)

9月の貿易収支も、約15億ドルと大幅な黒字が続いている。輸出は対前年並みに回復したが、輸入は引き続き大幅に落ち込んでいる。